

令和 3 年度 上戸祭小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

基本目標：心身ともに健康で日本及び国際社会に貢献できる人間の基礎的な資質を養う。

＝ 心身ともに健康でたくましく、創造力と実践力に満ちた、心豊かな児童の育成 ＝
—自分や他人を大切に子ども・進んで学ぶ子ども・たくましく生きる子ども—

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

＝ 合言葉：「学ぼう 遊ぼう 友だちと」 ＝

人間尊重の精神を基盤としたあらゆる教育活動を通して、学校教育目標に掲げた児童の育成を図る。
そして、児童が、社会の中で自分の能力を発揮し自己実現できるようになるために、「できなかったことができる、分からなかったことが分かる」ように、児童と教師と学校の power up を図る。

《目指す学校像》 楽しく学べる学校 安全で潤いのある学校 地域とともに歩む学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童の power up のために、個に応じた指導を充実させ、保護者と連携して家庭学習の習慣化を図るとともに、社会性の育成を推進する。
- (2) 児童の power up を支える教師の power up のために、校内研修を計画的・継続的に実施し、授業力の向上を図る。
- (3) 教師の power up を支える学校の power up のために、地域や保護者への情報提供と地域の教育力を生かした取組の推進と働き方改革の推進を図る。

○[星が丘地域学校園教育ビジョン] 未来を見つめ、学び続ける力の育成
～星が丘地域学校園の学校文化を築くことを通して～

4 教育課程編成の方針

- ・ 本校の教育目標の実現のために、各教科等及び学年間の連携を図り、系統的・発展的な指導を行うとともに、地域や学校の実態、児童の発達段階や特性を考慮し、特色ある教育課程を編成する。
- ・ 学校評価の反省を生かし、本年度の経営方針を踏まえ、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指した教育活動の展開を図る。
- ・ 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて工夫改善を図る。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
- ・ 未来を見つめ、夢と希望に満ちた学校づくり
- (2) 学習指導
- ・ 自分の考えや思いを豊かに表現しながら学びを広げるために、互いの意見を伝えあい、学び合うことのできる児童の育成。
 - 未来を見つめ学び続ける児童の育成
 - ・ 「かみと学習マニフェスト」による学力向上（めあての提示、学び合う活動の確保、振り返りの時間の設定 等）
- (3) 児童指導
- あいさつと言葉遣いを重点とした、望ましい生活習慣と正しい判断力の育成
 - 互いのよさを認め合い、自己有用感を高め、他人を思いやることのできる児童の育成
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）
- 自らのめあてを明確にし、進んで体力向上に取り組む児童の育成
 - ・ 児童の健康な生活習慣の定着
- (5) 教職員の働き方改革
- ・ 教科担任制の推進と校内業務の効率化の推進
 - ・ リフレッシュウィークの奨励

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組に関わる内容は文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
指導する児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	①自分の考えや思いを図や言葉で表現したり、話し合ったりするなど、豊かに表現して学び合う児童を育成する。 ②発達の段階に応じて、「発表の仕方」や「話の聞き方」のルールを示し、互いの意見を伝え合い、児童同士で考えを深めていけるような場の設定を行い生活の場と教室をつなぐ活用型の課題を提示して意欲を高め、学びを深める授業を行う。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 95.9% ・目標値を達成することができた。 ・今年度は、ICTを活用するなど話し合いの持ち方を工夫することで、学び合うことができた。 【次年度の方針】 ・「発表の仕方」「話の聞き方」の掲示物を活用することで、相手に分かりやすく伝えたり、自分の考えと比較して意見を述べたりできるよう、自分の考えを伝える力の育成に継続して取り組む。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①道徳科の授業の実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。 ②人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を実施する。 ③相手の立場を考えて思いやる心を育めるよう児童会活動や縦割り班活動を計画的に実施する。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答 94.4% 教職員の肯定的回答 100% ・目標値を達成できた。 ・児童会活動や縦割り班活動が制限される中、清掃活動や登校班で相互に思いやりの心を持って関わることができた。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き、授業や活動、日々の生活の中で人を思いやる心を育てるような指導・支援を行っていく。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上	①「かみとよい子のやくそく」に基づく全校共通理解のもとで、基本的生活習慣と正しい判断力の育成に努める。 ②きまりやマナーを守って行動していることを児童が相互に認めあう場や教師が称賛する機会を数多く設け、意識付けしながら実践意欲を高める。 ③生活目標に決まりやマナーに関する目標を掲げ、児童の意識化を図る。	A	【達成状況】 教職員の肯定的回答 93.3% 保護者の肯定的回答 93.8% ・目標値を達成できた。 ・決まりやマナーに関する生活目標を、児童の実態に合わせて設定して、重点的に指導した。 【次年度の方針】 ・次年度は評価の達成目標を90%に設定する。 ・次年度も引き続き、きまりやマナーを日常的に意識して生活できるように指導・支援していく。

目 指 す 児 童 の 姿	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 における肯定的回答 ⇒児童・地域住民 85%以上	①年間を通して地域や地域学校園と連携して児童が中心となって工夫したあいさつ運動を展開するとともに、登下校や上戸タイム、朝の会、帰りの会など、さまざまな場で児童の規範意識を高める指導を行う。 ②自ら進んで挨拶することや、時と場に応じた言葉遣いについて地域や家庭での指導を地域住民や保護者に働きかける。 ③日々の生活の中で教職員も進んであいさつを行い、児童のあいさつに対する意識を高める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 96.8% 地域住民の肯定的回答 86.4% ・あいさつについて児童の肯定的回答が高いものの、日ごろの児童の様子を見ていると個人差が大きく十分とは言えない。来年度も重点目標として指導・支援していきたい。 【次年度の方針】 ・校外でのあいさつも積極的に行えるように、地域や地域学校園と連携して児童の規範意識を高める指導・支援をしていく。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①児童の自己有用感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任が認め励ます指導に努める。 ②各教科の授業や校内での各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 91.1% 教職員の肯定的回答 93.3% ・目標値を達成できた。 ・学習カードを活用して目標の設定やふりかえりを行うことで、達成感を味わえるように支援した。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任が認め励ます指導に努める。
	A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 90%以上	①児童が自分の健康に気を付けて生活できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常生活指導を行う。 ②学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図るとともに、食前食後の手洗いを徹底し、感染症予防に努める。 ③交通安全指導や避難訓練を定期的に行い、自分の命は自分で守ろうとする意識が高められるよう、指導を工夫する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 91.7% ・うがい、手洗いの徹底、マスクの着用など、感染症予防の指導が定着し、感染予防効果を高めた結果目標を上回った。 【次年度の方針】 ・本年度同様、嫌いなものでも一口は食べる、配膳時に食べられる量をよそってもらう等、継続的に給食指導を行っていく。 ・保健だよりに載せる情報を精選し、健康の保持増進について啓発していく。 ・給食後の歯みがき指導については、感染症予防に十分配慮しながら引き続き行っていく。 ・廊下や階段の歩行については、全職員で徹底して指導する（見つけたら即指導する）。 ・登下校中の交通安全について、自分の命は自分で守れるよう指導していく。

目 指 す 児 童 の 姿	A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かって、あきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 80%以上	①宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して、意図的・計画的に指導する。 ②家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 90.8% 保護者の肯定的回答 75.6% ・キャリアパスポートを活用し、学期末などの節目で目標を立てたり、ふりかえりを行ったりして目標の実現に向けて取り組もうとする意欲を高める指導を行った結果、児童は目標値を達成できたものの、保護者の肯定的回答は目標値を下回った。 【次年度の方針】 ・児童が自らのよさを自覚して夢や目標の実現に向けて取り組もうとする意欲や、望ましい勤労観や職業観を、全教育活動を通して、意図的・計画的に指導する。 ・学年だよりや学校HPを活用して児童の様子を発信していくとともに、キャリアパスポートを通して家庭との連携を深め、保護者の理解を深めるよう努める。
	A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	①外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ②外国語活動に関する校内研修やALTと事前に綿密な打合せを重ねるなど、指導力の向上を図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 94.0% ・目標値を達成できた。 ・英語を使ったやりとりを重視し、積極的にコミュニケーションを図る機会を設けた。 【次年度の方針】 ・ALTと協力しながらさらなるコミュニケーション能力の向上を図る。
	A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っている。」 における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	①各教科等の授業や家庭学習、食育や学校図書館等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市の良さに気付く指導に努める。 ②教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 87.5% ・目標値を達成できた。 ・社会科や総合的な学習の時間において、身近な地域や宇都宮市を調べることを通して、宇都宮市の良さに気付くことができた。 ・6年生が総合的な学習の時間に、調べたことを全校児童に発表し、資料を掲示したことで、児童が宇都宮市の良さに気付くきっかけとなった。 【次年度の方針】 ・授業で身近な地域の学習を行う際には、宇都宮のよさについても意図的に触れるようにする。 ・宇都宮の資料を蓄積し、校内の一角に掲示する。

目 指 す 児 童 の 姿	A10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 80%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にI C T機器を活用する。 ②各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③図書だよりの発行を通して児童の読書意欲を喚起する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 93.7% 教職員の肯定的回答 96.7% ・児童・教職員ともに目標値を達成できた。 ・授業において積極的にI C T機器を活用したり、司書教諭と連携し授業内容との関連に配慮した教育図書を充実させたりすることで、学習効果が上がってきた。 【次年度の方針】 ・学年だより等で、I C T機器や図書をの活用した学習の様子を保護者に伝えられるようにする。 ・司書教諭と連携し、各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の充実に取り組む。
	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても思いやりの心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①道徳科の授業において、生命や人権を尊重する心や、他人を思いやる心などを体験活動との関連を図りながら涵養する。 ②お世話になっている方々に手紙を書くなどの活動を通して、交通指導員さんや安全ボランティア、地域の方々への感謝や思いやりの心を育む。	【達成状況】 児童の肯定的回答 94.4% 教職員の肯定的回答 100% ・地域の良さや先輩方の生き方など、生活・総合的な学習の時間等で学ぶことを通して、感謝やいたわりの気持ちを育てることができた結果、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・生活・総合的な学習の時間を中心に、地域について学ぶ活動を増やしていく。 ・交通指導員さんや安全ボランティアなど、学校のために活動してくれているの方々への感謝の気持ちを育めるよう、日常的に話題にしたり、挨拶を奨励したりする。 ・道徳や学級活動等で、地域のために活動しているの方々について考える時間を設けたり、地域の良さや特徴について学ぶ機会を設けたりして、自分の住む地域への愛着を深められるようにしていく。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 85%以上	①総合的な学習の時間における環境教育や各教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ②人権教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して人権教育を計画的に実施する。【A2②再掲】 ③東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ機会を設け、防災教育を充実する。	【達成状況】 児童の肯定的回答 91.4% 教職員の肯定的回答 80.0% 総合的な学習の時間等を通して環境問題への意識を高めることができた。 【次年度の方針】 ・職員研修の機会を設けるなどして、職員の意識を高めていく。 ・委員会活動の充実を図るなどして、児童の環境問題や防災意識を高められるようにする。

B 1 児童は、遊びや運動を楽しんでいる。 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①体育の時間や学級活動で行う運動や遊びを生活の中につなげる。 ②一輪車、竹馬といった遊具を整備するなど、休み時間に進んで運動に取り組めるような機会を設定し、屋外遊びを奨励する。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 98.3% 保護者の肯定的回答 94.6% ・水泳検定カード、持久走がんばりカード、なわとびがんばりカード等を使用し、意欲的に運動に取り組んできた結果、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・本年度の取り組みを継続するとともに、昼休みに委員会の児童が各教室をまわって換気と外遊びを呼びかけたり、昼休み始まりの放送を入れたりする取り組みを、可能な範囲で実施し、健康な児童は全員外で活動する雰囲気を定着させる。
B 2 児童は、自分の好きな部分に自信をもって生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、自分のよさに自信をもって生活している。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 85%以上	①児童についての情報交換や教育相談、いじめアンケート（年間4回実施）、Q-U検査の結果の分析活用、携帯電話の所持調査などにより、児童一人一人に目を向けた指導に努める。 ②一人一人の児童が居がいをもって学校生活を送ることができるよう、教員が積極的に児童のよさを見つけ、ほめたり言葉かけを行ったりすることに努めるとともに、悩みをもつ児童が教師に気軽に話ができる体制づくりを行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 90.5% 保護者の肯定的回答 83.9% ・教育相談やQUの結果を分析、活用して児童理解に努めることで、一人一人への適切な指導を心がけて取り組んできたが、保護者は目標値を下回った。今後はさらに、悩みをもつ児童が教師に気軽に話ができる体制づくりを行っていく。 【次年度の方針】 ・学校規模での活動に限られる中でも、放送による各委員会の発表など、高学年に活躍の場を与えることで、リーダーシップを養っていく。 ・各学年、学級で学級活動等に工夫をしながら、一人一人が活躍できる場を設定していく。
A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒ 教職員 85%以上	①特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ②必要に応じて個別の支援計画を作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.7% ・目標値を達成できた。 ・教職員がきめ細やかな指導を心掛けることができた。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き、特別な支援を要する児童に対して組織的に適切な指導・支援を行っていく。

目 指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%・保護者 85%以上	①学級活動、道徳科の授業を通して、人を思いやることや人権を尊重することの大切さを指導するとともに、日常生活の中でいじめが許されない行為であることを繰り返し指導する。 ②児童会主体の「いじめゼロ運動」の推進に努める。 ③定期的なアンケートや教育相談等から、児童を共感的に理解した上で、組織的な対応によりいじめの早期発見・早期解消を図る。 ④学年だよりや学校ホームページに道徳や学級活動で学習したことや、児童の様子などを掲載し情報を発信していく。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 98.7% 保護者の肯定的回答 77.7% ・児童は目標値を達成できたものの、学年だよりや学校HPによる計画的な掲載が不足したため、保護者の肯定的回答は目標値を下回った。 【次年度の方針】 ・学校の取組を保護者に対して発信していく必要がある。④の実施強化を意識しながら、①～③の充実を図る。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合う機会をつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	①児童の自己有用感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任が認め励ます指導に努める。【A5①再掲】 ②教育相談、アンケート、Q-U調査、SCとの教育相談などの結果を活用し、不適応傾向のある児童の早期発見、不登校の兆候や傾向の児童に関わる校内全体の情報共有を図る。 ③職員会議で定期的に児童の情報交換を行う。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 99.1% ・教職員が、児童がともに認め励まし合う機会をもった。 【次年度の方針】 ・次年度も引き続き、児童が互いに認め合う場を意図的に設けたり、児童を励ます指導を行ったりしながら児童の有用感を高めていく。 ・教職員で情報を共有しながら、不登校傾向のある児童の早期発見、対応に努める。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。 ②児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、日常的な指導に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.7% ・目標値を達成できた。 ・異なる文化の違いを認め合えるような支援を日常的に行ってきた。 【次年度の方針】 ・外国人児童についてのさらなる共通理解を図り、個に応じた支援が図れるよう組織的に取り組んでいく。 ・本年度の実践を継続し、児童が互いの国籍や文化の違い等を認め合い、尊敬し合えるような雰囲気づくりに努めていく。

目 指 す 学 校 の 姿	A17 学校は、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、活があり、明るく生き生きとした雰囲気である。」 における肯定的回答 ⇒児童・保護者 90%以上	①日常的に児童の見取りを細かく行い児童一人一人の話をよく聞き、声を掛け、よいところを認め、伸ばす指導に努める。 ②職員間で学習情報システムを利用した情報共有を含め、より報交換を密にし、職員全体で児童を称賛できる場を設定する。 ③「かみとオリンピック」に代わる、学年等を単位とした小イベントを企画するなど、互いの学級を認め合う機会を設け、学校生活の活性化につなげる。	【達成状況】 児童の肯定的回答 96.3% 保護者の肯定的回答 93.4% ・おおなわ大会など、学年等を単位とした小イベントを企画し、互いの学級を認め合う機会を設け、学校生活の活性化につなげた結果、目標を上回った。 【次年度の方針】 ・児童の意欲的な取り組みを認め称賛しながら、児童会、各委員会を中心に放送による発表を行うなど、児童主体の魅力ある活動の推進を継続していく。 ・活動が限られる中でも、放送や映像を積極的に活用するなど工夫改善し、児童一人一人が楽しいと思える活動を取り入れていく。 ・学習情報システム等を利用しての情報共有をさらに充実させ、児童のよさを見取り、認め、伸ばす積極的な児童指導を心がける。
	A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	①漢字、計算、音読などを発達の段階に応じて取り入れ、基礎・基本の定着を図った上で、分かる授業のための教材研究・授業研究に努め、自分の思いや考えを豊かに表現させながら、学び合う授業を展開する。 ②教師は授業の中でねらいの提示、友達の考えと自分の考えを比較し、さらに学びを深める活動、振り返りの時間を設定し、学力向上を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答 98.7% ・目標値を達成できた。 ・授業の中でねらいの掲示、振り返りの設定などを通し、学力の向上を図ってきた。 【次年度の方針】 ・職員研修や授業研究の機会を充実させ、指導力のさらなる向上を図る。 ・児童の実態に合わせた、個に応じた支援を継続していく。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる教職員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 90%以上	①「チーム上戸」の合言葉のもと、学校の諸課題への対応や、学校行事の企画、運営などに、教職員が相互に助け合いながら協力して取り組むよう努める。 ②学校目標及び本年度の努力点についての共通理解を図り、「チーム上戸」として協働していくことで、同僚性を高められるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.7% ・目標値を達成することができた。 ・校内の諸課題について、企画委員会、職員会議、打ち合わせ等で共通理解を図り、全職員が同一歩調で取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・校内における良好な人間関係の醸成を図ることで、より一層の風通しの良い雰囲気づくりに努める。 ・校内のOJTをさらに進め、教職員の専門性を生かした取り組みを推進するなど、チームとしての協働性を高め、教職員の資質向上を目指していく。

	A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	①教職員の負担軽減に向け学校の組織運営の改善や、各種行事等の精選を行う。 ②学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。 ③年間行事計画に「リフレッシュウィーク」を位置付けることで、勤務時間を意識した業務の効率的な実施や計画的な処理を進められるようにする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 86.7% ・目標値を達成することができた。 ・昨年度と比較すると、肯定的回答率が低下した。コロナ対応や GIGA スクール構想への対応などが、やや負担感を高めたように思われる。 【次年度の方針】 ・コロナ対応に関しては、本年度の経験を生かし、過剰になりすぎることなく臨機応変に対応し、負担軽減を心掛ける。 ・1人1台端末の効果的な利用について校内で学び合う機会を設け、業務の効率化につなげていく。 ・「リフレッシュウィーク」が形骸化しないよう、声を掛け合いながら意識的に早目の退勤を心がける。
目 指 す 学 校	A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学校と中学校が連携した「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。」における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上	①星が丘地域学校園ビジョンに基づき、自己有用感を高める取組を重点として小中一貫教育・地域学校園を推進する。 ②中学校との連携を保ち、あいさつ運動や乗り入れ授業を、目的を明確にして効果的に実施する。 ③地域学校園事務室や、学校一人配置職員の分科会を通して、学校園内の相互支援体制を充実する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答 93.3% 保護者の肯定的回答 82.4% ・保護者の肯定的回答率は目標を下回ってしまったが、教職員は大きく上回った。 【次年度の方針】 ・乗り入れ授業やあいさつ運動の計画的な実施など、可能な範囲で中学校との連携を深めていく。 ・児童をほめて認める機会を増やし、自己肯定感や自己有用感の高揚と健全育成を図る。 ・地域学校園の取組の様子について、学校HP等を活用して保護者への周知を図る。
の 姿	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」における肯定的回答 ⇒保護者・地域住民 85%以上	①地域協議会や地域コーディネーターと連携を図り、感染症対策を十分に行いながら、地域の人材や施設等の教育力を生かした学習を可能な範囲で実施していく。 ②家庭や地域社会との連携による教育活動を実施することで、よりよい生活習慣の育成や効果的な学習活動の展開を目指す。	【達成状況】 保護者の肯定的回答 87.0% 地域住民の肯定的回答 85.7% ・保護者、地域ともに目標値を達成することができたが、昨年度の数値をやや下回った。 【次年度の方針】 ・窓口となる教員を中心に、学校からも状況に応じた実践の方法を提案するなど、各ボランティアの方々との連携が途絶えないよう留意していく。 ・DVD等の映像の活用や、オンラインでの実践を含め、家庭や地域との連携による学習活動を可能な範囲で展開していく。

目 指 す 学 校 の 姿	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 学校は、家庭・地域・企業と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者・地域住民 85%以上	①地域協議会や地域コーディネーターと連携を図り、地域の人材や施設等の教育力を生かした学習を充実させ豊かな体験活動や居場所づくりを展開する。＜再掲A22①＞ ②「お礼の手紙」などを通して、ご協力いただいた方々への感謝の気持ちを表すことで、地域を愛する気持ちを育てる。 ③宮っ子ステーション「かみタマ」「上戸クラブ」との連携を図り、児童の放課後の多様な体験活動、居場所づくりに努める。	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答 87.0% 地域住民の肯定的回答 85.7% ・保護者、地域住民ともに目標値を達成することができた。 【次年度の方針】 ・感謝の手紙を届けるなどの活動を通して、地域の方々への感謝の気持ちを醸成し、地域、家庭、学校が連携して地域を愛する心の育成に努める。 ・「かみタマ」や「上戸クラブ」との連携を図り、コロナ禍でも実施可能な体験活動や居場所づくりに努めていく。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%・保護者 80% 地域住民 80%以上	①毎月、各教室、特別教室、廊下、体育館等を、チェック項目に基づく安全点検を実施し、危険箇所については迅速な改善や修繕に努める。 ②危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③コロナウイルス感染症予防対策、熱中症対策予防対策、インフルエンザ蔓延予防対策など、年間を通して保健指導管理に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答 96.7% 保護者の肯定的回答 90.6% 地域住民の肯定的回答 95.0% ・安全点検の実施により、迅速な修繕を図り、児童の安全確保に努めた。 ・「コロナ感染症対策マニュアル」に基づき、全職員で感染予防にあたった。 【次年度の方針】 ・実際の場面を想定した引き渡し訓練や、予告なしの避難訓練を行うことで、児童の安全確保に備えていく。 ・状況に応じて、新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底していく。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員 80%以上	①児童がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。 【A10①再掲】 ②各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 【A10②再掲】 ③図書だよりの発行を通して児童の読書意欲を喚起する。 【A10③再掲】	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 93.7% 教職員の肯定的回答 96.7% ・児童・教職員ともに目標値を達成できた。 ・授業において積極的にICT機器を活用したり、司書教諭と連携し授業内容との関連に配慮した教育図書を充実させたりすることで、学習効果が上がってきた。 【次年度の方針】 ・学年だより等で、ICT機器や図書を活用した学習の様子を保護者に伝えられるようにする。 ・司書教諭と連携し、各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の充実に引き続き努めていく。

本校の特色・課題等	B3 教職員は、児童のよさや努力を認め励ます指導をおこなっている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「先生は、自分のよいところを見つけて、ほめてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 90%・保護者 85%以上	①児童の自己有用感を高められるよう児童相互に認め合う場を数多く設けるとともに、担任も認め励ます機会を設け、指導に努める。 ②機会を積極的に捉えて、児童のよさや児童が努力したことを各種便りやホームページ、スタンダードダイアリー等で保護者に伝えるように努める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 98.1% 保護者の肯定的回答 86.4% ・児童、保護者ともに目標値を超える肯定的回答率を得ることができた。 ・学年だより等に QR コードを入れるなどの取り組みにより、ホームページへのアクセスがより容易になった。 【次年度の方針】 ・各種便りやスタンダードダイアリー、ホームページ等をさらに有効活用し、児童の活動や向上的変容の様子を積極的に発信していく。
	B4 学校は保護者と連携して家庭学習を進めている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、毎日宿題などの家庭学習に取り組んでいる」 における肯定的回答 ⇒児童・教職員・保護者 90%以上	①「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の捉え方について保護者及び児童に周知徹底を図り、各自が計画を立てて家庭学習に取り組めるように支援するとともに、保護者の理解・協力を得て、家庭学習の習慣化を図る。 ②児童の提出した「家庭学習の記録」やノートによく目を通し、一人一人の学習状況や内容に応じて個別指導を行い、認め励ますことで意欲づけを図る。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答 91.8% 教職員の肯定的回答 96.7% 保護者の肯定的回答 93.6% ・目標値を達成できた。 ・「家庭学習の手引き」に基づき、家庭学習の捉え方について保護者及び児童に周知徹底が図られ、習慣化されたものの、学習内容による個人差が見られる。 【次年度の方針】 ・具体的な家庭学習の取り組み方、進め方について効果的な方法を児童に示し、継続して取り組めるようにする。また、懇談会や学年だより等を通して保護者への啓発を図る。
	B5 学校は家庭と協力して読書活動を推進している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学校は家庭と連携して読書活動を行っている」 における肯定的回答 ⇒教職員・保護者 85%以上	①地域学校園推薦図書（スター文庫）の設定・推奨、今月のお勧め図書の展示、読書週間での様々な企画等を通して、読書活動を推進する。 ②毎月第3日曜日を家庭読書の日とし、家庭の理解と協力を呼びかけながら、家庭読書の充実を図る。	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答 100% 保護者の肯定的回答 66.3% ・保護者の肯定的回答率は、目標値を下回った。校内では多くの児童が読書に取り組んでいるが、「家庭での読書が足りない」という保護者との認識の違いも感じられた。 【次年度の方針】 ・週末の学習課題に「読書」を加えるなど、児童全員が家庭での読書に取り組めるよう働きかける。 ・「今学期一番心に残った本」というテーマで学期ごとに紹介文を書き、保護者に知らせるといった活動を取り入れていく。 ・質問文の記述を、評価項目と合うように再検討する。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

《学校運営面》

・多くの項目で数値指標を上回る肯定的回答が得られた一方で、前年度の回答率や市の平均を下回った項目も少なくない。特に地域住民からの回答において顕著であり、A21「小中一貫教育の取組」、A22「家庭・地域・企業等との連携」では、前年度や市の平均をそれぞれ10ポイント近く下回っている。これは、コロナ禍の影響により地域人材を活用した学習が減少したこと、また地域住民の来校の機会が減ったことによる情報不足が原因と考えられる。学校の情報や取組について積極的に地域に発信するなどの工夫が必要である。

・児童の回答については、ほとんどの項目で肯定的回答が前年度を上回り、市の平均よりも高い。特にA17「学校は活気がある」については、前年度や市の平均をそれぞれ5ポイント上回っており、コロナ禍においても児童が意欲的に学校生活を送っていることがうかがえる。

・B5「読書への親しみ」については、教職員の肯定的回答率が100%に対し、保護者は66.3%と大きく差がある。児童の肯定的回答率は90%を超えていることから、校内では多くの児童が読書に親しんでいることが分かる。今後は、校内だけでなく家庭での読書も促す働きかけを工夫していきたい。

《学習指導面》

○A18「授業は分かりやすい」についての児童の肯定的回答率は、98.7%と非常に高い。これは、計画的な校内研修による授業力向上の取組と、「かみと学習マニフェスト」を基にした本時のねらいの設定と振り返りの重視による学力向上の取組の成果と考える。次年度も「かみと学習マニフェスト」を活用し、「分かる楽しい授業」の展開を目指したい。

・A9「宇都宮のよさ」については、教職員、保護者、児童の全てで肯定的回答率が前年度を上回っている。また、A12「持続可能な社会」への関心についても、教職員の肯定的回答率が指標に届かなかったものの、教職員、児童ともに前年度を大きく上回り、また市の平均よりも高い。総合的な学習の時間を中心に各教科において意図的に取り上げることで、児童の意識が高まったことがうかがえる。

・A10「ICT機器・図書の活用」については、児童、教職員ともに目標値を10ポイント以上上回り、また、保護者、児童ともに市の平均より7ポイント以上高い。授業での一人一台端末の積極的な活用や、司書教諭と連携し授業内容に関連する教育図書の整備によるものと考えられる。「学び合い」の充実による「深い学び」の実現を目指し、今後も積極的に取り組んでいきたい。

《児童指導面》

○A2「思いやり」A3「きまりやマナー」については、全ての評価対象者の回答において肯定率が93%を超えており、本校児童の規範意識が高いことが分かる。道徳科の学習、日常生活などで児童の意識を高める指導を続けてきた結果であると考えられる。一方で、A4「あいさつ」については、児童と教職員、保護者、地域住民との間に10ポイント以上の差がある。今後は、進んで挨拶をすることに加え、相手を意識した挨拶についても指導を行っていきたい。

○A14「いじめ対策」については、児童の肯定的回答率が98.7%で目標値を上回った一方で、保護者は77.7%で目標値に届かなかった。学校における取組について、広く保護者に発信していく必要がある。

《健康面》

○A6「健康や安全に気を付けた生活」では、教職員、保護者ともに目標値を上回った。今年度も、全校で手洗い・消毒、マスクの着用、行事における感染症対策の徹底等、感染拡大防止に努めてきた。次年度も、引き続き感染症予防対策の徹底を図っていきたい。

7 学校関係者評価

・児童の肯定的回答率の多くが、前年度と比べて増加していて大変嬉しく思う。様々な制限を余儀なくされているであろう中で、児童たちが学校生活をより良いものにしようと努力している様子・姿が感じられ安心した。今後も児童たちが安心して楽しい学校生活を送ることができるよう協力していきたい。

・学校と地域住民の肯定的回答率が10%以上も開いている設問に対しては、対策や改善をしないといけない。次年度の方針に掲げたように、発信や実施の意識が必要だと感じる。

《学校運営面》

・A21については、地域学校園の取組開始時に懸念されたことだが、学校園以外の中学校に進学する児童が疎外感を感じることはないよう、引き続き配慮してほしい。

・A22・A23については、コロナ状況下ではあるが、地域協議会、コーディネーター、ボランティア組織が学校からの要望に応え、学校に提案していくことで、地域の教育力のさらなる向上・活用に協力していきたい。

・A22～A24については、新型コロナウイルス感染症の影響がある中での対応であったが、次年度も、引き続き状況に

応じた代替案、予防策を進めていただきたい。

・ B 5については、家庭においても本が身近な存在となるよう、図書館、生涯学習センター図書室などの利用について情報発信があるとよい。

《学習指導面》

・ A 9については、保護者の肯定的回答率が低いのは地域内での活動が減少していることの表れであると考えられるため、地元での校外学習等に一層努力していきたい。

《児童指導面》

・ いじめ対策の部分が保護者・地域共に減少しているところは、特に力を入れて改善しなければならない。PTAとしても対策を考えたい。

・ A 4については、肯定的回答率が前年度より低下し、市平均と比較しても低いことから、校外でも場面に応じて挨拶ができるよう、地域でも一層努力していきたい。

《健康・体力面》

・ A 6については、地域住民の評価が相対的に低いことから、学区内・登下校時の交通安全にさらに協力していきたい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

・ 感染拡大防止対策は継続しつつ、学校教育活動への理解が深まるよう、学校だより、学年だよりへの写真掲載に加え、次年度は、地域住民も見られるホームページの充実を図ることで、家庭や地域により積極的に情報発信をするよう努めていく。

○未来を見つめ学び続ける児童の育成を目指し、「かみと学習マニフェスト」を基に、授業の冒頭にはめあての掲示、授業の週末には学習のまとめと振り返りを全学級で徹底し、児童一人一人が学習のねらいを明確に認識し主体的に学習に取り組める授業を展開していく。

○引き続き規範意識の向上に努めるとともに、学校・家庭・地域の連携や「校内あいさつ運動」「小中合同あいさつ運動」の効果的な活用により、相手を意識した挨拶の習慣化を図っていく。

○教育相談週間はもちろんのこと、通年で相談ポストを活用し、相談しやすい教職員を指名して相談できるシステムを継続していく。子どもの悩みを早期発見し、早期対応・解決ができるよう、引き続き取り組んでいく。いじめ未然防止として、道徳、学級活動などの授業で人権教育・道徳教育の取り扱いを継続していく。

○児童のよさを認め、伸ばす積極的な児童指導を継続するとともに、一人一人が活躍できる場を設定するなどして、居がい感をもって学校生活を送ることができるよう工夫していく。

・ 月1回の「おうち de 読書」（家庭読書）のほか、週末の宿題に「読書」を加えたり、学校図書室以外の図書貸出し施設を紹介したりなどして、家庭読書の充実を図る。